

資料 1 2019 年度履修要覧掲載、ディプロマ・ポリシー（発達心理学専攻／児童文学専攻）

修了認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【発達心理学専攻】

1. 学生が修了時に身につけておくべき能力＝教育目標、学修・研究目標

発達心理学専攻は、教育研究上の目的を達成するために、学生が修了する時点において、博士課程（前期）・博士課程（後期）のそれぞれの教育・研究の深まりに応じて、以下のような力を身につけることを教育目標および学修・研究目標として定める。これらの力を身につけ、課程修了の要件を満たした者に、それぞれ修士（心理学）、博士（心理学）の学位を授与する。

博士課程（前期）

- 1) 発達心理学および発達臨床心理学に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要なデータを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を専門的な論文によって発表することができること。
- 2) 発達支援に関する社会的な要請を理解し、実践の場において、または研究の場において、専門的な貢献ができること。
- 3) 発達心理学および発達臨床心理学、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと。

博士課程（後期）

- 1) 発達心理学および発達臨床心理学に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要なデータを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を専門的な論文によって発表することができること。
- 2) 発達支援に関する社会的な要請を理解し、実践の場において、または研究の場において、専門的な貢献ができること。
- 3) 発達心理学および発達臨床心理学、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと。
- 4) 学術審査論文を2本以上、発表するように努めること。
- 5) 研究は研究倫理審査会の承認を得ること。

2. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文・博士論文については、以下の基準によって評価される。

修士論文

- 1) 発達心理学または発達臨床心理学の研究における学術的寄与、および知見の社会的意義
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究のレビューの適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集されたデータの質および量と、その分析の適切性

- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や、図表等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

博士論文

- 1) 発達心理学または発達臨床心理学の研究における高度の学術的寄与、および知見の社会的意義と具体的な貢献の可能性
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究のレビューの適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集されたデータの質および量と、その分析の適切性
- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や、図表等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

【児童文学専攻】

1. 学生が修了時に身につけておくべき能力＝教育目標、学修・研究目標

児童文学専攻は、教育研究上の目的を達成するために、学生が修了する時点において、博士課程（前期）・博士課程（後期）それぞれの教育・研究の進捗・深度に応じて、以下のような力を身につけることを教育目標および学修・研究目標として定める。これらの力を身につけ、課程修了の要件を満たした者に、それぞれ修士（文学）、博士（文学）の学位を授与する。

博士課程（前期）

- 1) 児童文学および児童文化に関する広い視野と高度な知識を身につけていること。
- 2) 研究倫理の遵守と、専門分野に関する適切な研究方法に支えられた、高度な情報収集能力を持ち、文献・資料を読み解く力を身につけていること。
- 3) 独自性のある研究成果を導き出し、それを的確な表現力をもって発信できること。
- 4) 専門分野に関する社会的要請を理解し、実践および研究の場において、専門的な寄与・貢献ができること。

博士課程（後期）

- 1) 児童文学および児童文化に関する広範な視野と学識を持ち、専門分野における深い学術的知見を獲得していること。
- 2) 博士課程（前期）で培った調査力・分析力・考察力をさらに発展させ、独創的かつ自立した研究活動ができること。
- 3) 専門分野およびそれらに隣接する領域の動向に関心を持ち、学問的・実践的な新たな問題に対応できる柔軟な想像力・創造力を身につけていること。

4) 専門分野に関する社会的要請を理解し、実践および研究の場において、専門的な寄与・貢献ができること。

2. 論文審査基準

上記の目標を踏まえ、修士論文・博士論文は、以下の基準によって評価される。

修士論文

- 1) 児童文学または児童文化の研究における学術的寄与および知見の社会的意義
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究の参照の適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集した資料の質および量とその分析・解釈の適切性
- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や図表・画像等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

博士論文

- 1) 児童文学または児童文化の研究における高度の学術的寄与および知見の社会的意義と具体的な貢献の可能性
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究の参照の適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集した資料の質および量とその分析・解釈の適切性
- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や図表・画像等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

資料2 2018 年度履修要覧掲載 研究指導計画

◇修士論文指導に関して

発達心理学専攻

修士論文指導

・授業のねらいと達成目標

発達心理学・発達障害および臨床心理学、さらには隣接諸領域に関する専門的な理論や知識、また研究方法や臨床的な技能を身につけることが、本専攻のカリキュラム・ポリシーである。それが達成されているかどうかを、実証的研究とそれを報告する論文の作成という実践を通して示すことが修士論文の目的である。

さらにこのことをディプロマ・ポリシーに明記されている学修目標に即して言うならば、「発達心理学および発達臨床心理学に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要なデータを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を専門的な論文によって発表することができること」である。

・授業概要

上記の学修・研究目標を、指導教員による指導と、中間発表会および口述審査会（いずれも公開）を通して実現することが、修士論文の研究と論文作成の概要である。

ディプロマ・ポリシーには以下のような論文の審査基準が明記されており、これに適う研究及び論文作成を目指す。

- 1) 発達心理学または発達臨床心理学の研究における学術的寄与、および知見の社会的意義
- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究のレビューの適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集されたデータの質および量と、その分析の適切性
- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や、図表等の書式の適切性
- 9) 研究の倫理的適切性

・授業計画（授業の形式、スケジュール等）

修士1年次に決定した指導教員の指導スケジュールに沿って、個別に進められる。

指導スケジュールのモデルケースを、週1回の指導として30回分について記すならば以下ようになる。

第1回：リサーチクエストの確認（1）：研究テーマおよびリサーチクエスト（人間の心理および発達のどういうことに焦点をあてたいのか）を明確にする。それを通じて、自分の研究がどのような専門領域に位置するのかを特定し、先行研究を収集・整理する。

第2回：リサーチクエストの確認（2）

第 3 回：先行研究のレビュー（1）：研究テーマに関連する先行研究を収集し、当該領域の研究の流れを把握する。その作業を通じて、修士論文で実証したいこと（目的ないし仮説）を絞っていく。

第 4 回：先行研究のレビュー（2）

第 5 回：先行研究のレビュー（3）

第 6 回：研究計画の立案（1）：具体的な仮説ないし目標が明確になったならば、そのためのデータ収集法と分析方法（研究計画）を立てる。その際に研究の倫理的適切性についても留意する。

第 7 回：研究計画の立案（2）

第 8 回：研究計画の立案（3）

第 9 回：予備調査／予備実験（1）：仮説または目的にそって予備的な調査・実験を行う。

第 10 回：予備調査／予備実験（2）

第 11 回：予備調査／予備実験（3）

第 12 回：予備調査／予備実験（4）

第 13 回：中間発表会（公開）へ向けての準備（1）：予備調査・実験の結果をまとめ、当初の仮説や目的がどの程度達成されそうかを検討しながら、中間発表会の準備に入る。

第 14 回：中間発表会（公開）へ向けての準備（2）

第 15 回：中間発表会（公開）へ向けての準備（3）

第 16 回：中間発表会での結果を受けての研究方針の検討（1）：中間発表会で寄せられたコメントを参考に、研究方法の適切性やデータの質や量、分析の適切性を検討する。

第 17 回：中間発表会での結果を受けての研究方針の検討（2）

第 18 回：本調査／本実験のデータ収集（1）

第 19 回：本調査／本実験のデータ収集（2）

第 20 回：本調査／本実験のデータ収集（3）

第 21 回：本調査／本実験のデータ収集（4）

第 22 回：データ分析（1）

第 23 回：データ分析（2）

第 24 回：データ分析（3）

第 25 回：データ分析（4）

第 26 回：修士論文の作成（1）：論文の構成の適切性、論旨の明確性と一貫性、文章表現や図表の適切性に配慮し、知見の学術的・社会的寄与を明確化しながら論文を作成する。

第 27 回：修士論文の作成（2）

第 28 回：修士論文の作成（3）

第 29 回：修士論文の作成（4）

第 30 回：修士論文の作成（5）

・準備学習・履修上の注意

修士論文は本専攻での 2 年間の中心的な学修成果となるので、上記の指導スケジュールにそって着実に実証的研究を進めること。なお、カリキュラム・ポリシーに記されているように、修士論文の作成過程で行

った文献展望や得られた知見を、本専攻付属の発達臨床センターや生涯発達研究教育センターが開催する研究会、あるいは学内外の研究会で発表することが奨励される。さらに『発達臨床センター紀要』・『生涯発達心理学研究（生涯発達研究教育センター紀要）』に投稿することも望ましい。

・教科書・参考書等

【教科書】

特になし。

【参考書】

各自の研究テーマに沿ったものを指導教員と相談しながら選ぶこと。

・成績評価の方法

【評価方法】

修士論文本体を主査（指導教員）および複数の副査が読み、口述審査会（公開）での発表や質疑への受け答えを加味しつつ、評価を行う。評価は学科会議を開き、主査・副査以外の教員の意見も聞いた上で決定する。

【評価基準】

上記の「論文の審査基準」を参照。論文及び発表に反映された実証的研究が、明確な目的をもってなされ、方法や分析、結果に対する考察に関して、発達心理学・発達臨床心理学の実証研究として一定の水準に達しているかどうかを中心に評価がされる。

・備考

各指導教員による個別指導や中間発表会（公開）以外にも、学内外の研究会や学会に積極的に参加することが望ましい。

児童文学専攻

修士論文指導

・授業のねらいと達成目標

児童文学および児童文化に関する修士論文を完成させることを目標とする。

この授業は、ディプロマ・ポリシー中の「児童文学および児童文化に関する専門的な知識・理論を修得し、自らの研究関心に即して、必要な作品・資料を収集し、それを分析・解釈する方法を見出し、そこで得られた知見を口頭および論文によって発表できること」および「児童文学および児童文化に関する社会的要請を理解し、実践の場および研究の場において、専門的な寄与・貢献ができること」に対応している。

・授業概要

児童文学および児童文化を専攻する学生の研究指導を行い、修士論文作成にかかわる諸問題を討議しながら、各自の研究テーマに即して必要な助言を与える。

・授業計画（授業の形式、スケジュール等）

各自の研究テーマ、研究状況に応じて、以下の諸点について個別指導を行う。

1 問題点の整理

①研究テーマの確認

②先行研究の整理

③参考文献の読みかた

2 論文の内容とスタイル

①資料の収集と調査

②分析・解釈の方法の確定

③論証のしかた

3 論文の構成

①見取り図の作成

②構成と枚数配分

4 執筆のしかた

①下書きと推敲

②引用と注、参考文献目録

③図表や画像の扱いかた

④点検と仕上げ

5 口頭発表

①発表資料の作成

②発表内容と時間配分

・準備学習・履修上の注意

先行研究や関連研究の文献調査と整理、資料収集、資料の分析と解釈、修士論文執筆、と授業外学習が主になるので、完成に至るまで自律して研究を進めることが求められる。

・教科書・参考書等

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

適宜紹介する。

・成績評価の方法

【評価方法】

口頭発表（20%）、修士論文の内容（60%）、修士論文提出後の口述試験（20%）により評価する。

【評価基準】

修士論文は以下の基準によって評価される。

1 児童文学または児童文化の研究における学術的寄与および知見の社会的意義

2 研究テーマの学問的意義の適切性

3 先行研究の参照の適切性

4 研究方法の適切性

5 収集した資料の質および量とその分析・解釈の適切性

6 論文の構成の適切性

7 論旨の明確性と一貫性

8 文章の表現・表記や図表・画像等の書式の適切性

9 研究の倫理的適切性

口頭発表と口述試験は、各自の修士論文について、口頭での確に述べ、質疑に応答できることが評価基準となる。

国語国文学専攻

修士論文指導

・授業のねらいと達成目標

修士論文を完成する。

・授業概観

修士論文を完成するために、テーマの設定や先行研究の精査、資料収集の方法、論文の構成について学ぶ。

原則として指導教員の個別指導によるが、適宜他分野の教員の指導を受けることとする。

・授業計画（授業の形式、スケジュール等）

〈1年次〉

第1回：修士論文のテーマ設定について①

第2回：修士論文のテーマ設定について②

第3回：修士論文のテーマ設定について③

第4回：先行研究の整理と吟味①

第5回：先行研究の整理と吟味②

第6回：資料収集の結果報告①

第7回：資料収集の結果報告②

第8回：論文の構成について①

第9回：論文の構成について②

第10回：研究計画についての発表①

第11回：研究計画についての発表①に対する指導

第12回：研究計画についての発表②

第13回：研究計画についての発表②に対する指導

第14回：総括（中間）①

第15回：総括（中間）②

第16回：テーマに基づく研究内容の発表①

第17回：テーマに基づく研究内容の発表①に対する指導

第18回：テーマに基づく研究内容の発表②

第19回：テーマに基づく研究内容の発表②に対する指導

第20回：テーマに基づく研究内容の発表③

第21回：テーマに基づく研究内容の発表③に対する指導

- 第 22 回：テーマに基づく研究内容の発表④
- 第 23 回：テーマに基づく研究内容の発表④に対する指導
- 第 24 回：テーマに基づく研究内容の発表⑤
- 第 25 回：テーマに基づく研究内容の発表⑤に対する指導
- 第 26 回：テーマに基づく研究内容の発表⑥
- 第 27 回：テーマに基づく研究内容の発表⑥に対する指導
- 第 28 回：テーマに基づく研究内容の発表⑦
- 第 29 回：テーマに基づく研究内容の発表⑦に対する指導
- 第 30 回：総括

〈2 年次〉

- 第 1 回：修士論文のテーマと全体の構成①
- 第 2 回：修士論文のテーマと全体の構成②
- 第 3 回：第 1 章の論点の整理と確認
- 第 4 回：第 1 章にかかわる先行研究の調査と確認
- 第 5 回：第 1 章にかかわる先行研究の検討
- 第 6 回：第 1 章についての報告と討論①
- 第 7 回：第 1 章についての報告と討論②
- 第 8 回：第 1 章の草稿の検討①
- 第 9 回：第 1 章の草稿の検討②
- 第 10 回：第 1 章の原稿の修正
- 第 11 回：第 2 章の論点の整理と確認
- 第 12 回：第 2 章にかかわる先行研究の調査と確認
- 第 13 回：第 2 章にかかわる先行研究の検討
- 第 14 回：第 2 章についての報告と討論①
- 第 15 回：第 2 章についての報告と討論②
- 第 16 回：第 2 章の草稿の検討①
- 第 17 回：第 2 章の草稿の検討②
- 第 18 回：第 2 章の原稿の修正
- 第 19 回：第 3 章の論点の整理と確認
- 第 20 回：第 3 章にかかわる先行研究の調査と確認
- 第 21 回：第 3 章にかかわる先行研究の検討
- 第 22 回：第 3 章についての報告と討論①
- 第 23 回：第 3 章についての報告と討論②
- 第 24 回：第 3 章の草稿の検討①
- 第 25 回：第 3 章の草稿の検討②
- 第 26 回：第 3 章の原稿の修正

第 27 回：各章の調整と論文原稿の修正

第 28 回：論文原稿の修正

第 29 回：論文が明らかにしたことと残された課題の確認

第 30 回：論文執筆を振り返って

- ・準備学習・履修上の注意

指導を受ける際には、事前に質問内容（問題点）を整理しておくこと。

なお、以上は標準的な指導計画であり、論文の内容に応じて適宜変更する。

- ・教科書・参考書等

【教科書】

特になし。

【参考書】

特になし。

- ・成績評価の方法

【評価方法】

発表内容、提出物および平常点による。

【評価基準】

- 1) 学術上の創意工夫が認められるものであること。
- 2) 研究分野に関する知識が十分に備わっていること。
- 3) 研究の目的と方法が適切であること。
- 4) 論理的構成をとり、正確な記述であること。
- 5) 研究が倫理的に適切であること。

フランス語フランス文学専攻

修士論文指導

- ・授業のねらいと達成目標

2015 年 4 月 1 日付けのフランス語フランス文学専攻「修士課程修了に関する内規」に示されているように、修士課程一年次 11 月に提出された「修了予備レポート」の評価に基づき、指導教員との協議を経て修士論文執筆を選択した学生を対象として、一年間で修士論文を完成させるために、年二回の中間発表会を中期的到達点および通過点として、個別の指導を行なう。

- ・授業概要

一般的な論文執筆の準備作業（文献収集・テキスト読解等々）を行ない、一年次における研究を踏まえて論文のテーマを絞り込み、前期後期各一回行なわれる中絶発表会ごとに、それまでの作業を整理してまとめ、論文の構成を修正しつつ細部を埋め、本学フランス語フランス文学専攻の教員による「修士論文の作成について」（修論執筆マニュアル、2012 年 6 月改訂）の内容に沿って体裁・形式を整えて論文を仕上げるとまで、進行状況に応じて綿密な指導を行なう。

- ・授業計画（授業の形式、スケジュール等）

- 第 1 回：論文執筆マニュアルの配付と解説
- 第 2 回：論文テーマの絞り込み，設定に向けて 1
- 第 3 回：論文テーマの絞り込み，設定に向けて 2
- 第 4 回：論文テーマの絞り込み，設定に向けて 3
- 第 5 回：文献調査・書誌作成 1
- 第 6 回：文献調査・書誌作成 2
- 第 7 回：文献調査・書誌作成 3
- 第 8 回：文献調査・書誌作成 4
- 第 9 回：論文の構成，章立ての試み 1
- 第 10 回：論文の構成，章立ての試み 2
- 第 11 回：論文の構成，章立ての試み 3
- 第 12 回：論文の構成，章立ての試み 4
- 第 13 回：前期中間発表会に向けた問題点の整理 1
- 第 14 回：前期中間発表会に向けた問題点の整理 2
- 第 15 回：前期中間発表会での発表の総括
- 第 16 回：論文執筆中に生じた諸問題への対応・指導 1
- 第 17 回：論文執筆中に生じた諸問題への対応・指導 2
- 第 18 回：論文執筆中に生じた諸問題への対応・指導 3
- 第 19 回：論文執筆中に生じた諸問題への対応・指導 4
- 第 20 回：論文執筆中に生じた諸問題への対応・指導 5
- 第 21 回：論文執筆中に生じた諸問題への対応・指導 6
- 第 22 回：論文執筆中に生じた諸問題への対応・指導 7
- 第 23 回：論文執筆中に生じた諸問題への対応・指導 8
- 第 24 回：後期中間発表会に向けた問題点の整理 1
- 第 25 回：後期中間発表会に向けた問題点の整理 2
- 第 26 回：後期中間発表会における発表の総括
- 第 27 回：論文執筆中に生じた諸問題への対応・指導 9
- 第 28 回：論文執筆中に生じた諸問題への対応・指導 10
- 第 29 回：論文の仕上げのための最終段階の指導 1
- 第 30 回：論文の仕上げのための最終段階の指導 2

・準備学習・履修上の注意

各自の直面する問題を，常に明確に説明できるように整理しておくこと，また時間の有効利用のために，メール等を活用して指導教員と密接な連絡を保ち，面談の際には問題点が共有されているように心がけること。

・教科書・参考書等

【教科書】

なし（フランス語フランス文学専攻教員による「修士論文の作成について」（修論執筆マニュアル）は必携）

【参考書】

必要に応じて随時指示する。

- ・成績評価の方法

【評価方法】

中間発表会での発表（配付資料を含む）と平常点

【評価基準】

発表の内容が専門性の観点から一定レベルに達しているか、また説得力のある発表となったかを中心に評価する。平常点は準備がきちんとしてきているかどうかを重視する。中間発表会での発表：70%，平常点 30%，60%以上を合格とする。

英語英文学専攻

修士論文指導（2018 年度は該当科目がなくシラバス掲載なし）

- ・授業のねらいと達成目標
- ・授業概観
- ・授業計画（授業の形式、スケジュール等）
- ・準備学習・履修上の注意
- ・教科書・参考書等
- ・成績評価の方法

◇研究指導（博士後期課程）に関して

発達心理学専攻

研究指導（博士課程後期）

- ・授業のねらいと達成目標

「発達心理学および発達臨床心理学に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要なデータを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を専門的な論文によって発表することができること」という本専攻のディプロマ・ポリシーにもとづき、博士論文作成の過程を進めることが目的である。あわせてこの科目では、国内外での学会発表におけるポスターや発表原稿の作成、口頭発表の行い方、ジャーナル・ペーパーの作成、そして最新の研究動向の把握など、研究者として必要な資質の育成も期している（カリキュラム・ポリシー）。

- ・授業概要

指導教員による指導と、毎月開かれる複数の教員による指導会を通して、博士論文の研究と論文作成を進める。ディプロマ・ポリシーには以下のような論文の審査基準が明記されており、これに適う研究及び論文作成を目指す。

1) 発達心理学または発達臨床心理学の研究における高度の学術的寄与、および知見の社会的意義と具体的な貢献の可能性

2) 研究テーマの学問的意義の適切性

3) 先行研究のレビューの適切性

4) 研究方法の適切性

5) 収集されたデータの質および量と、その分析の適切性

6) 論文の構成の適切性

7) 論旨の明確性と一貫性

8) 文章の表現・表記や、図表等の書式の適切性

9) 研究の倫理的適切性

・ 授業計画（授業の形式、スケジュール等）

博士論文の作成は大きく 2 段階に分かれる。(1) 博士課程（後期）に進学し、研究計画を立ててデータを収集し分析を進めていく過程では、おもに指導教員の指導スケジュールと、毎月開かれる複数の教員による指導会によって授業が進行する。(2) データの収集と分析が進み、論文の概要がある程度はっきりした段階で、大学院生ごとに個別の指導委員会が専攻内で組織され、それまでの指導教員の他に新たに 2 名の教員が指導委員となり、指導会をもち博士論文の作成を指導・サポートする。

(1) の場合の指導スケジュールのモデルケースを、週 1 回の指導として年間 30 回分について記すならば以下ようになる。この間、毎月複数の教員による指導会が開かれ、その時々を進捗状況に応じて、文献レビューの成果や得られたデータについて発表をする。

第 1・2 回：リサーチクエストの確認：研究テーマおよびリサーチクエスト（人間の心理および発達のどういうことに焦点をあてたいのか）を明確にする。それを通じて、自分の研究がどのような専門領域に位置するのかを特定し、先行研究を収集・整理する。

第 3～7 回：先行研究のレビュー：研究テーマに関連する先行研究をレビューし、当該領域の研究の流れを把握する。その作業を通じて、修士論文で実証したいこと（目的ないし仮説）を絞っていく。

第 8～10 回：研究計画の立案：具体的な仮説ないし目標が明確になったならば、そのためのデータ収集法と分析方法（研究計画）を立てる。その際に研究の倫理的適切性についても留意する。

第 11～14 回：予備調査／予備実験：仮説または目的にそって予備的な調査・実験を行う。当初の仮説や目的がどの程度達成されそうかを検討し、必要に応じて目的や仮説を修正する。

第 15～17 回：予備調査／実験の結果を受けての研究方針の検討：予備的データをもとに、研究方法の適切性やデータの質や量、分析の適切性を検討する。

第 18～21 回：本調査／本実験のデータ収集

第 22～25 回：データ分析

第 26～30 回：論文の作成：論文の構成の適切性、論旨の明確性と一貫性、文章表現や図表の適切性に配慮し、知見の学術的・社会的寄与を明確化しながら論文を作成する。

(2) 大学院生ごとの個別の指導委員会が組織されて以降は、半年から 1 年をかけて 3～4 回程度指導会を開く（時期やペースはそれぞれに研究の進捗状況に応じて適切な時期や間隔にて行われる）。指導を受け

る大学院生はその時点までの研究成果を発表し、指導委員からのコメントをもとに分析や論文の執筆を進める。

・準備学習・履修上の注意

発達心理学についての学修成果の集大成となるので、上記の指導スケジュールにそって着実に実証的研究を進めること。なお、カリキュラム・ポリシーに記されているように、博士論文の作成過程で行った文献展望や得られた知見を、本専攻付属の発達臨床センターや生涯発達研究教育センターが開催する研究会、あるいは学内外の研究会・学会で積極的に発表することが奨励される。さらに『発達臨床センター紀要』・『生涯発達心理学研究（生涯発達研究教育センター紀要）』、あるいは学会誌に投稿することが望ましい。

・教科書・参考書等

【教科書】

特になし。

【参考書】

各自の研究テーマに沿ったものを指導教員と相談しながら選ぶこと。

・成績評価の方法

【評価方法】

上記の指導スケジュールを着実にこなし、博士論文の完成に近づいているかどうかをもって判断される。

【評価基準】

上記の「論文の審査基準」を参照。審査基準が理解され、博士論文に向けて進められている研究が、発達心理学・発達臨床心理学の実証研究として一定の水準に近づいているかどうかを中心に評価がされる。

・備考

各指導教員による個別指導や複数の教員による指導委員会以外にも、学内外の研究会や学会に積極的に参加することが望ましい。

児童文学専攻

研究指導（博士課程後期）

・授業のねらいと達成目標

児童文学および児童文化に関する博士論文執筆に向けた助言・指導を行うことを目標とする。この授業は、ディプロマ・ポリシー中の「児童文学および児童文化に関する専門的な知識・理論を修得し、自らの研究関心に即して、必要な作品・資料を収集し、それを分析・解釈する方法を見出し、そこで得られた知見を口頭および論文によって発表できること」および「児童文学および児童文化に関する社会的要請を理解し、実践の場および研究の場において、専門的な寄与・貢献ができること」に対応している。

・授業概要

児童文学および児童文化を専攻する学生に必要な研究指導を行い、博士論文の執筆を目指す。論文の作成、学会・研究会での口頭発表に関する助言を与える。

・授業計画（授業の形式、スケジュール等）

各自の研究テーマと進度に応じて個別指導を行い、問題点の解決にふさわしいアプローチ・分析の方法を

見つけ、それを効果的に表現できる力を養う。

1. 問題点の整理

- ① 研究テーマの設定
- ② 先行研究・参考文献の整理

2. 論文の内容とスタイル

- ① 分析方法の確定
- ② 資料の収集と分析
- ③ 論証のしかた

3. 論文の構成

- ① 論文のアウトライン作成
- ② 論証

4. 執筆のしかた

- ① 下書きと推敲
- ② 引用、注、参考文献目録、図表などの作成
- ③ 点検と仕上げ

5. 口頭発表について

- ① レジユメの作成
- ② 発表内容と時間配分
- ③ 質疑応答の受け方

6. 投稿論文について

- ① 構成と文字数
- ② 下書きと推敲

・準備学習・履修上の注意

個々人の研究状況に応じて論文指導を行うため、各自、研究に向けた意識を明確にもち、博士論文完成に向けて研究を進めることが求められる。

・教科書・参考書等

【教科書】

特に指定しない。

【参考書】

適宜紹介する。

・成績評価の方法

【評価方法】

論文完成に向けた執筆活動、口頭発表、論文投稿などの総合で評価する。

【評価基準】

博士論文は以下の基準により評価される。

- 1) 児童文学および児童文化の研究における高度の学術的寄与および知見の社会的意義と具体的な貢献の

可能性

- 2) 研究テーマの学問的意義の適切性
- 3) 先行研究の参照の適切性
- 4) 研究方法の適切性
- 5) 収集した資料の質および料とその分析・解釈の適切性
- 6) 論文の構成の適切性
- 7) 論旨の明確性と一貫性
- 8) 文章の表現・表記や図表・画像等の書式の適切性

言語・文学専攻

研究指導（博士課程後期）

- ・授業のねらいと達成目標

学位請求論文執筆許可者は、博士論文を完成させる。それ以外の者は、執筆許可に向けて、研究を積み上げる。

- ・授業概要

言語・文学専攻の博士論文審査基準にしたがって、論文の内容を吟味し、必要な指導を行う。

- ・授業計画（授業の形式、スケジュール等）

- 第 1 回：博士論文全体の構成と本年度の課題①
- 第 2 回：博士論文全体の構成と本年度の課題②
- 第 3 回：博士論文のテーマ設定について③
- 第 4 回：課題 I に関わる先行研究の検討①
- 第 5 回：課題 I に関わる先行研究の検討②
- 第 6 回：課題 I についての報告と討論①
- 第 7 回：課題 I についての報告と討論②
- 第 8 回：論文 I の草稿の検討①
- 第 9 回：論文 I の草稿の検討②
- 第 10 回：論文 I の原稿の修正①
- 第 11 回：論文 I の原稿の修正②
- 第 12 回：課題 II に関わる先行研究の検討
- 第 13 回：課題 II についての報告と討論①
- 第 14 回：課題 II についての報告と討論②
- 第 15 回：論文 II の草稿の検討①
- 第 16 回：論文 II の草稿の検討②
- 第 17 回：論文 II の原稿の修正①
- 第 18 回：論文 II の原稿の修正②
- 第 19 回：課題 III に関わる先行研究の検討

第 20 回：課題Ⅲについての報告と討論①

第 21 回：課題Ⅲについての報告と討論②

第 22 回：論文Ⅲの草稿の検討①

第 23 回：論文Ⅲの草稿の検討②

第 24 回：論文Ⅲの原稿の修正①

第 25 回：論文Ⅲの原稿の修正②

第 26 回：論文原稿の修正①

第 27 回：論文原稿の修正②

第 28 回：研究発表の予行①

第 29 回：研究発表の予行②

第 30 回：本年度明らかにできたことと残された課題の確認

・事前学習・履修上の注意

指導を受ける際には、事前に質問内容（問題点）を整理しておくこと。

なお、以上は標準的な研究か計画であり、学生の必要に応じて適宜変更する。また 28,29 回の研究発表の予行は、発表時期に合わせて他の回と差し替える。

・教科書・参考書等

【教科書】特になし。

【参考書】特になし。

・成績評価の方法

【評価方法】

発表内容、提出物及び定常点による。

【評価基準】

- 1) 当該学界に学術上の寄与がなされるものであること。
- 2) 先行研究の取り扱いが適切であること。
- 3) 資料の取り扱いが適切であること。
- 4) 論理的構成をとり、正確な記述であること。
- 5) 研究が倫理的に適切であること。

資料 3 2019 年度履修要覧掲載・「特定の課題についての研究の成果」審査基準

修了認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

【国語国文学専攻】

1. 学生が修了時に身につけておくべき能力＝教育目標、学修・研究目標

国語国文学専攻は、教育研究上の目的を達成するために、学生が修了する時点において、以下のような力を身につけることを教育目標および学修・研究目標として定める。これらの力を身につけ、課程修了の要件を満たした者に、修士（文学）の学位を授与する。

- 1) 国語国文学に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要なデータを収集・分析するための方法を身につけ、得られた知見を専門的な論文によって発表することができること。
- 2) 日本の言語文化に関する社会的な要請を理解し、専門的な貢献ができること。
- 3) 国語国文学、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと。

2. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文および特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

日本語学、日本文学、漢文学、日本語教育、国語教育の分野において、研究上一定の成果が認められ、高度の専門性を有する職業を担い得る能力を身につけていることが認定できるものであること。

・修士論文は、以下の基準によって評価される。

- 1) 学術上の創意工夫が認められるものであること。
- 2) 研究分野に関する知識が十分に備わっていること。
- 3) 研究の目的と方法が適切であること。
- 4) 論理的構成をとり、正確な記述であること。
- 5) 研究が倫理的に適切であること。

・特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

I 課題論文（3本）

- 1) 3つの課題論文が、研究対象の専門的で多角的な分析として、その総合的な理解に寄与していること。
- 2) それぞれの課題論文について、研究の目的および方法が明確であること。
- 3) それぞれの課題論文について、記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 3つの課題論文をあわせて、研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

II 教材研究

- 1) 自ら開発した教材と、実践的な知見に基づく研究成果の報告をともに含んでいること。
- 2) 教育実践上の成果が期待できるものであること。
- 3) 研究の目的および方法が明確であること。
- 4) 報告の記述が論理的で表現が緻密であること。

5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

III 翻刻・注釈・現代語訳

1) 既存の翻刻・注釈・現代語訳が備わらず、研究上有用と認められる作品・資料を対象としていること。

2) 原文の内容を正確に把握した翻刻・現代語訳であること。もしくは、作品の理解に寄与する注釈を施していること。

3) 作品の研究上の位置づけや、翻刻・注釈・現代語訳にあたっての方針が、明確に示されていること。

4) 指導教員の指導が反映されたものであること。

IV 研究資料（年譜・参考文献目録等）

1) 既存の年譜・参考文献目録等が備わらない作家・研究領域を対象とし、網羅的な内容かつ研究対象の理解に寄与するものであること。

2) 研究対象の客観的位置づけや、資料作成にあたっての方針が、明確に示されていること。

3) 指導教員の指導が反映されたものであること。

【フランス語フランス文学専攻】

1. 学生が修了時に身につけておくべき能力＝教育目標、学修・研究目標

フランス語フランス文学専攻は教育研究上の目的を達成するために、学生が修了する時点において、以下のような力を身につけることを教育目標および学修・研究目標として定める。これらの力を身につけ、課程修了の要件を満たした者に、修士（文学）の学位を授与する。

1) フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要な文献、データを収集・分析するための方法を身につけ、そこから得られた知見を発表することができること。

2) 社会的な要請を理解し、研究の場において、または実践の場において、専門的な貢献ができること。

3) フランス語学、フランス文学、フランス文化、フランス語教育、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心を持ち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと。

2. 論文審査基準

以上の目的を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文および特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

・修士論文は、以下の基準によって評価される。

1) 研究対象および関連事項を精査したものであること。

2) 研究の目的および方法が明確であること。

3) 内容の展開が論理的であること。

4) 記述の表現が厳密であること。

5) 研究上一定の成果が認められるものであること。

6) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

・特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

I 課題論文（4本）

- 1) 4つの課題論文が、研究対象の専門的で多角的な分析として、その総合的な理解に寄与していること。
- 2) それぞれの課題論文について、研究の目的および方法が明確であること。
- 3) それぞれの課題論文について、記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 4つの課題論文をあわせて、研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

II フィールドワーク・教材研究

- 1) 教育現場におけるフィールドワークの記録あるいは自ら開発した教材と、実践的な知見に基づく研究成果の報告をともに含んでいること。
- 2) 研究の目的および方法が明確であること。
- 3) 報告の記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

III 仏和翻訳

- 1) フランス語で書かれ公刊された作品で、かつ既訳のないものの日本語訳であること。
- 2) フランス語原文の語彙や文法を正しく理解していること。
- 3) フランス語原文のニュアンスを正確に伝えていること。
- 4) 作品の客観的位置づけや、翻訳にあたっての方針が、明確に示されていること。

【英語英文学専攻】

1. 学生が修了時に身につけておくべき能力＝教育目標、学修・研究目標

英語英文学専攻は、教育研究上の目的を達成するために、学生が修了する時点において、以下のような力を身につけることを教育目標および学修・研究目標として定める。これらの力を身につけ、課程修了の要件を満たした者に、修士（文学）の学位を授与する。

- 1) 比較文化・文学、英語圏の文学・文化、英語学・英語教育学に関する専門的な理論や知識、技能を修得し、自らの研究関心に応じて必要なデータを収集・分析するための方法を身につけ、得られた知見を発表することができること。
- 2) 社会的な要請を理解し、研究の場において、また実践の場において、専門的な貢献ができること。
- 3) 比較文化・文学、英語圏の文学・文化、英語学・英語教育学、さらには隣接する諸領域の研究動向に関心をもち、新たな学問的あるいは現実的問題に対応できる柔軟な姿勢を持つこと。

2. 論文審査基準

以上の目標を達成するために展開される教育活動および学修・研究活動の成果として提出される修士論文および特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

・修士論文は、以下の基準によって評価される

- 1) 学術上の創意工夫が認められるものであること。
- 2) 研究分野に関する知識が十分に備わっていると認められるものであること。
- 3) 研究の目的と方法が適切であると認められるものであること。

- 4) 論理的な構成をとり、正確な記述であると認められるものであること。
- 5) 研究が論理的に適切であると認められるものであること。

・特定の課題についての研究の成果は、以下の基準によって評価される。

I 課題論文 (3 本)

- 1) 3 つの課題論文が、研究対象の専門的で多角的な分析として、その総合的な理解に寄与していること。
- 2) それぞれの課題論文について、研究の目的および方法が明確であること。
- 3) それぞれの課題論文について、記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 3 つの課題論文をあわせて、研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導および中間発表会における指摘が反映されたものであること。

II フィールドワーク・教材研究

- 1) 教育現場におけるフィールドワークの記録あるいは自ら開発した教材と、実践的な知見に基づく研究成果の報告をともに含んでいること。
- 2) 研究の目的および方法が明確であること。
- 3) 報告の記述が論理的で表現が緻密であること。
- 4) 研究上一定の成果が認められるものであること。
- 5) 指導教員の指導が反映されたものであること。

III 翻訳

- 1) 英語で書かれ公刊された作品であること。
- 2) 英語原文の語彙や文法を正しく理解していること。
- 3) 英語原文のニュアンスを正確に伝えていること。
- 4) 作品の客観的位置づけやコンテキスト、翻訳にあたっての方針が、明確に示されていること。